

## 7月アンケート分析

※実現度の低いのは、「自ら学ぼうとしているか」、「周りの人から認められているか」、「読書の習慣がついているか」である。

「自ら学ぶ」については、学習意欲向上が大切であり、そのために知識の増加、達成感が鍵である。そのため、学校としては、授業の工夫、宿題等の家庭学習を含む学習の量、学習の大切さを教えることが必要であり、それを実行していかなければならない。

「周りから認められているか」については、学級役割や行事役割の達成感、他人から褒められる等の喜びが重要であると思われる。そのため、学級運営や行事等がこなすだけにならずに絶えず行う目的を考えて行っていく必要があると思われる。

「読書習慣」については、本を読むことによる読書の楽しみを感じることが大切である。そのための習慣化への機会（朝読書）を引き続き、行っていく必要がある。また、本の紹介など、本への好奇心を増加させる必要がある。学校司書による図書室紹介、整備や委員会活動で増加させていきたい。

※ニーズ度の高いのは、「自ら学ぼうとしているか（21.4）」「規則正しい生活を送っているか（20.2）」「周りの人から認められているか（19.5）」、「読書の習慣がついているか（19.4）」である。これは、ほぼ実現度の低いところからニーズ度が高くなっていると思われる。

「規則正しい生活を送っているか」についても、学校教育活動においていろいろな場面で「規則を守る」ことの大切を説くと同時に、規則を守らなければならない雰囲気を作る必要がある。これについては、教職員だけでなく、生徒自身（生徒会）と協力してやっていく必要がある。